

Q.) B 型肝炎ウイルスはどのように感染するのでしょうか？

A.) B 型肝炎ウイルス (HBV) は日本では約 130～150 万人が感染していると推定されています。HBV への感染は HBV の含まれる血液や体液が体内に入ることによって起きます。感染が持続しているキャリアの大部分は、キャリアの母親から出生時に感染する母子感染ですが、現在では母子感染の対策が取られているため新たに母親から感染することはなくなりました。一方、成人の感染経路は、大部分がキャリアのパートナーとの性交渉などによるものです。成人で感染した場合はキャリアにならず一過性感染のことが多いのですが、最近では一部の患者でキャリア化するタイプの HBV 感染例が増加し問題となっています。

Q.) B 型肝炎になると病気はどのように進みますか？

A.) 慢性肝炎を発症すると、肝硬変に進展したり、肝がんを発症したりすることがあります。慢性肝炎や初期の肝硬変・肝がんでは症状がないことも多いのですが、放っておくと知らないうちに肝臓病が進行している場合もありますので、検診などで HBV 感染が分かった人は必ず医療機関を受診してください。

Q.) B 型肝炎の治療は？

A.) 肝炎を発症した場合でも適切に治療すれば肝硬変や肝がんへの進行を防ぐことができます。ただし、治療により肝炎の活動性が低下した方でも肝がんを発症することがありますので注意が必要です。現在の抗ウイルス療法は HBV を完全に排除することはできませんが、血中と肝細胞内のウイルス量を減少させて肝炎を鎮静化させる効果があります。抗ウイルス療法としては注射薬であるインターフェロン製剤か飲み薬である核酸アナログ製剤を用います。インターフェロン治療では、HBV に直接作用するとともに HBV に対する免疫を高めることでウイルス量を減少させます。多様な副作用がありますが、治療期間が限られており、治療がうまくいった人では効果が持続することが分かっています。核酸アナログ製剤は HBV が肝細胞の中で増えるのを抑える飲み薬です。1 日 1 回の内服でウイルス量が低下し肝炎が沈静化しますが、服薬を中止すると HBV が急に増えて重症の肝炎を発症する場合があります、長期間服用する必要があります。どちらの製剤を使うかについては肝臓専門医とご相談ください。

Q.) 日常生活での注意は？

A.) HBV は血液や体液を介して感染しますので、キャリアの方は性交渉パートナーへの感染に注意が必要です。このためパートナーには予防のためのワクチン接種をお勧めします。食事、入浴などの日常生活で感染することは通常ありません。ただし歯ブラシやかみそりなど血液に触れる可能性があるものは共用しないようにしてください。